

道守九州会議 交流会2006



道を歩く、まちを知る

NAGASAKI

交流はさらに
ふくらみ福岡へ



みちづくれ
in
NAGASAKI

10/27 金

全体会議

オープニング

特別講演

報告会1部 子どもからの報告、討議
2部 各県からの報告、討議

交流集会

10/28 土

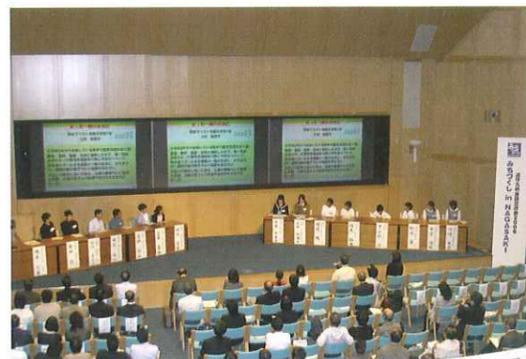
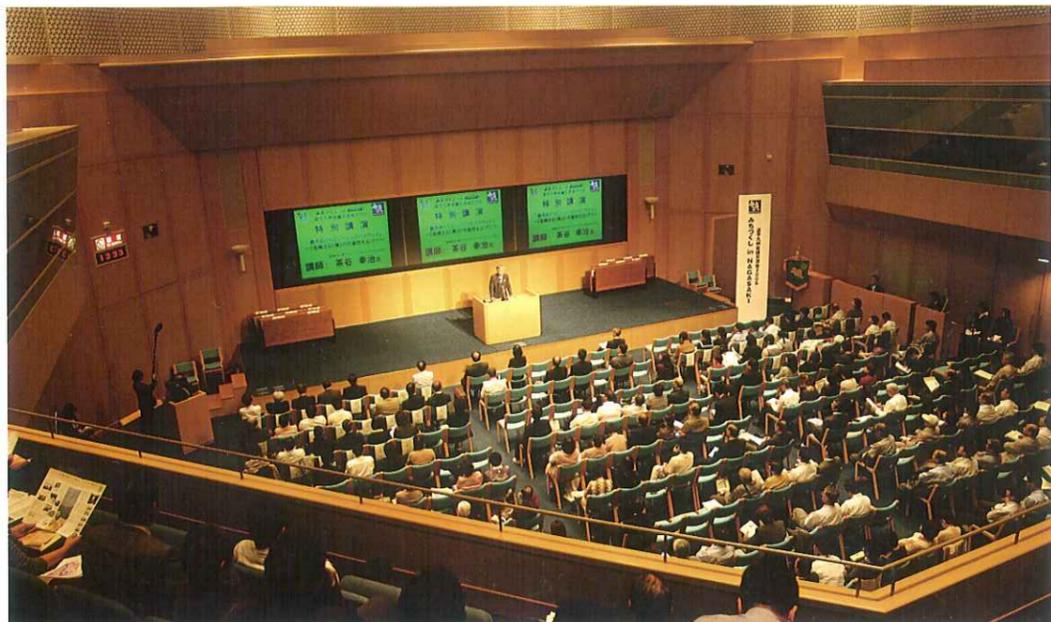
現地体験学習

(長崎さるく博'06 7つのコース参加)

主催: 道守九州会議・道守長崎会議
国土交通省九州地方整備局
九州幹線道路協議会

共催: 長崎さるく博'06推進委員会
後援: 福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・
福岡市・北九州市・長崎市・西日本新聞社・佐賀新聞社・長崎新聞社・
熊本日日新聞社・大分合同新聞社・宮崎日日新聞社・南日本新聞社

子どもも、大人もいっしょになって真剣に 道守精神を語りあい、将来を展望した長崎大会



道守九州会議は、九州で道に関するさまざまな活動を行う人々や団体で構成する民主主体の任意団体で、民と行政との「協働」を基本に活動しています。

九州7県の道守各県会議の会員が一堂に会し情報交換を行う「道守九州会議交流会」が、今年(2006年)は10月27日、28日の二日間にわたり長崎市内において開催されました。「みちのく in NAGASAKI」を合い言葉に約400名の道守会員らが集い、活動報告会、交流会、まち歩き体験などを通じて道について語り合い、交流を深めました。



10月27日(金) 13:00~20:30
■全体会議(長崎ブリックホール)

オープニング

- 主催者挨拶 道守九州会議代表世話人 榎木 武
- 来賓挨拶 長崎県副知事 田中 裕司
長崎市助役 内田 進博
- 主催者挨拶 九州地方整備局長 小原 恒平

特別講演

「都市めぐりとシーニックバイウェイ～「長崎さるく博」の可能性を広げて～」

- 講師 茶谷 幸治氏
(長崎さるく博'06コーディネーター)

報告会

- 1部:子どもからの報告、討議
- 2部:各県の道守からの報告、討議

■交流集会(グラバー園)

10月28日(土) 9:30~12:00
■現地体験学習:長崎さるく博'06

オープニング

民と行政の協働で 道づくりを推進

「道」を舞台に、あるいはテーマに地域や暮らしを見つめ、様々な活動を行っている人々を「道守」と名付け、その行動を「道守活動」と呼んでいます。

古代の道守は、旅人の飢えや渴きを癒そうと道沿いに果樹などを植えた心があったといえます。道守活動はそうした古代の道守の心を温め、現在という新しい時代を見つめ、道守の心を継承・発展させようとするものです。

そのためには、個のためでなく公へのボランティアを基本に、行政とのパートナーシップを保ちつつ民と行政の協働が重要となります。

オープニングの挨拶においては、それぞれの立場から協働への取り組み決意が述べられました。



道守九州会議代表世話人 榎木武氏
「集まった多くの仲間と共に、人をもてなす心を大切にしている道守活動をさらに活性化させましょう。」



国土交通省九州地方整備局長 小原恒平氏
「九州道守同士の連携で新しい道のあり方を探りつつ、行政と市民の協働活動を進めていきましょう。」



長崎県副知事 田中裕司氏
「道を取り巻く環境は行政にも厳しい状況。地域と一体になった道づくりに積極的に取り組んでいきたいです。」



長崎市助役 内田進博氏
「行政だけではなく、多くの市民の協力を得て成立した「長崎さるく博'06」を体験してください。」

特別講演 「都市めぐりとシーニックバイウェイ～「長崎さるく博」の可能性を広げて～」

長崎さるく博'06コーディネーター
プロデューサー
茶谷幸治さん

- 長崎さるく博'06 コーディネータープロデューサー
- 1946年大阪生まれ。衛星通を経て衛星営業センター設立。
- 「アーバンリゾートフェア神戸'93」チーフプロデューサー、「ジャパンエキスポ世界リゾート博」催事プロデューサー、「ジャパンエキスポ南紀熊野体験博」総合プロデューサー、「しまなみ海道'99」総合プロデューサー。
- 現在、関西学院大学社会学部非常勤講師。



まち歩きは非常に有望な方法

今「長崎さるく博」がすすめられており、何百万人という方が長崎の市内を歩いておられます。「さるく」というのは「ぶらぶら歩く」という意味。今回は42コースを制作、ガイドさんと一緒に歩くなどの企画も作り、これにも10万人以上の方が参加されました。まちを歩く、ただそれだけでみんなに来てもらえるのだからかという不安も大変ありましたが、今となつてはこのやり方、非常に有望な方法ということがわかってまいりました。

観光の原点は「寄り道」

古来日本人の旅というのは、何かを仕入れに行く、学問に行くという目的がありました。庶民の場合は神様仏様にご利益を頂戴するという目的ですね。江戸時代は規則で簡単に自分の藩から出られないわけですが、お伊勢参りや金比羅さんに行きたい、といえは認められる。旅費なども一族や村みんなでお金を出し合い、元気な若者を選んで送り出す。出かけていった本人はお伊勢様に直行してもそのまま帰らず、ついでに京のまちを見て行こう、とあちこちめぐって観光や情報交換をするわけです。

足の裏で足応えを実感

しかしこの構造が突然崩れてしまいました。交通網が非常に発達し、道路や鉄道が整備され、飛行機が飛び、目的地まで早く行ける。すると何か用事をすませるとさっさと帰ることが出来る。ちよいと寄り道してまちを覗いてみるという余裕がなくなつてしまった。非常に辛いなことに私は長崎で盛んに歩かせていただきました。それは足応えであるこの坂段はキツイとか、あの角を曲がる時こんな感じがするとかわかる。この密着は安定感があり「ああ、長崎は素晴らしいまちだ」と実感で

きます。でもそれは長崎に限ったことではなく、皆さんもきっとご自分の住んでいるところを歩いたり、またどこかに行つたときに昔のように寄り道をする事でそのまちの空間がだんだん自分のものになってくることでしょう。

寄り道を楽しむために道がある

「長崎さるく博」に参加した方々からも「長崎ってこうなんだ」というお手紙をたくさんいただき、私もそれを読みながら感動しております。その感動の源とは「まち」というのは本来そういうものなのだ」ということ。もし隣のまちがあるいは九州のまちがそういう形で自分と親しくなつていいたら、寄り道を楽しむために道路がある、というふうに考えると都市のあり方は「用事が済んだら、はい、さっさとお帰り下さい」から「まあめぐりめぐりしていきなさい」といった構えになつてくる。

明日は皆さん、この長崎のまちをさるいていただけたらとのこと、きつとガイドさんたちも皆さんを上機嫌でお迎えするでしょう。どうぞゆつくり楽しんでください。今日はありがとうございました。

報告会 1部

子どもからの報告、討議

子どもたちの力強い活動と、意欲に圧倒！
道守活動を担う若い力、確実に育っています。



進行役の木ノ下結理さん

子どもたちの道守活動を発表する報告会1部では、5県14人の子どもたちが登場しました。学校での課外授業や、NPO法人のイベントなど、活動の形態は様々ですが、「道に触れ合い、道を学ぶ」という点では同じです。かつて参勤交代の舞台となった豊後街道を歩いたり、普段、世話をしている花壇への道を自分たちでデザインして造ったりと、どの県もそれぞれにユニークな活動を展開していました。中でも、子どもたちの活動で印象的なのは、成長過程が垣間見られることでしょうか。「清掃活動の中で積極的になれた」「参加して達成感に涙が出た」「アイデアを出して、道守活動に積極的に関わって行きたい」などなど、今後の活動がとも楽しみなコメントもありました。また、宮崎県日南市立潮小学校の生徒からは「大人はゴミを捨てることを止めてください」というダイレクトなメッセージに、大人の道守がドキリとするシーンも。子どもの視点から見た、道守活動は大人にはない新鮮さがあります。これから、日本の道を担う若き力として、心強いかがりです。



▲国土交通省九州地方整備局道路計画第二課長の福本仁志氏。
昨年道の守交流会2005で寄せられた意見・要望を受け、その後の行動計画を報告。

報告会 2部

各県の道守からの報告、討議

1本の道でも、所変われば活動も変わる、九州全体で協力して、知恵を出し合って。



進行役の三原ユキ江さん

シ ユガーロードとも呼ばれる長崎街道は長崎市から北九州市小倉まで続き、阿蘇くじゅうやまなみシーニックバイウェイは熊本市から別府市まで続いています。ひとつの道がいくつかの県にまたがっていることを考えても、九州が一体になって道守活動をしていく必要があるでしょう。そんな意見交流の場となる報告会。7県から12人が集まり活動報告がありました。「道守の日」を定め二斉清掃に取り組んだ宮崎県、道の改善に力を入れて結ぶ熊本県の道の日カレ、している黒崎地区美化推進協議会、8月4日を橋の日と名づけて橋の清掃活動をする唐津市の試みなど、発表された活動内容は多岐にわたりました。日南海岸きらめきフェスティバル、延岡の蒲江北浦大漁海道など、あちこちでシーニックバイウェイが誕生していることを見ても、道守活動が広がりつつあることがわかります。九州の道守が国道、県道、市道など、行政の壁や垣根を越えて、生活の場である道に風を吹かせる存在となるため、行政と民の協働へのPR活動がさらに大切であることを話し合いました。

長崎 NAGASAKI

▲佐世保市聖和女子学院中学校2年生の川崎美奈さん、舟倉詩織さん。
元気な花と、元気な体をつくることを目標に「生ゴミリサイクル花壇」づくりについて報告。

熊本 KUMAMOTO

▲熊本マリスト学園中学校1年上村祐里子さん、熊本市立出水中学校1年の齊藤万里子さん。
参勤交代の舞台でもあった豊後街道(125キロ)を7日間かけて完歩した感動を報告。

宮崎 MIYAZAKI

▲日南市立潮小学校6年の坂元琴音さん、高橋拓正くん、西元雄介くん、宝蔵蓮也くん。
「自分が捨てたゴミの行き先を考えて！」と生態系への影響を大人に訴えました。

鹿児島 KAGOSIMA

▲加治木町立加治木小学校6年の内村周くん、隈元拓也くん、下小牧涼くん、船迫颯くん、(園田洸太くん)。
花壇づくりを通じて、身近な道に対する想いが膨らみ、様々な活動に広がったことを報告。

大分 OITA

▲日田市立北部中学校3年の岩田俊くん、2年の佐竹真之介くん、北部中ボランティア会長の岡本宗重氏。
地域の人達と始めた清掃ボランティア活動を通じて、地域の一員としての自覚の芽生えを報告。

鹿児島 KAGOSIMA

▲鹿屋たばこ販売協同組合の遠藤止子氏。
喫煙者&非喫煙者が共存できる社会を目指し清掃美化活動を続けて現在で28年目。

熊本 KUMAMOTO

▲熊本の道を語る女性会の一田功子氏。
一般の方にも広く浸透させたいと、道をカレで結びつけた「道の日カレ」の新展開。

宮崎 MIYAZAKI

▲宮崎大学経済政策研究室の高林達太郎氏。
研究室で宮崎駅前商店街の街づくりに携わり、商店街と協力してイベントを運営。

佐賀 SAGA

▲NPO法人活気会の池田慶子氏。
佐賀をゆくりと散策できる街の案内板やマップを製作。イベント時の清掃活動も行う。

大分 OITA

▲湯の坪街道デザイン会議の池辺秀樹氏。
自然景観を大切にしてきた湯布院で、土の道にこだわった新しい土地開発について報告。

福岡 FUKUOKA

▲道守柳川ネットワークの山田三代子氏。
定期的に道の研修会を開き、また、観光地柳川の行事の際には清掃活動を行っている。

大分 OITA

▲やまなみハイウェイ沿線の自然と景観を守るくじゅう会議の久恒雄一氏。
阿蘇くじゅうの草原景観保全活動を発表。

熊本 KUMAMOTO

▲有限会社橋本建設の橋本道徳氏。
8月4日を橋の日とし、唐津市内の橋の清掃を行う。活動後のパーベキュー大会も恒例。

熊本 KUMAMOTO

▲NPO法人 宮崎文化本舗の石田達也氏。
今年10月22日を道守の日と決めて、宮崎県全体で活動をしたことを報告。

熊本 KUMAMOTO

▲黒崎地区美化推進協議会の木村健一氏。
元気で活力ある北九州を目指す散策マップを制作。道路管理上の歩道整備にも活用予定。

交流集会

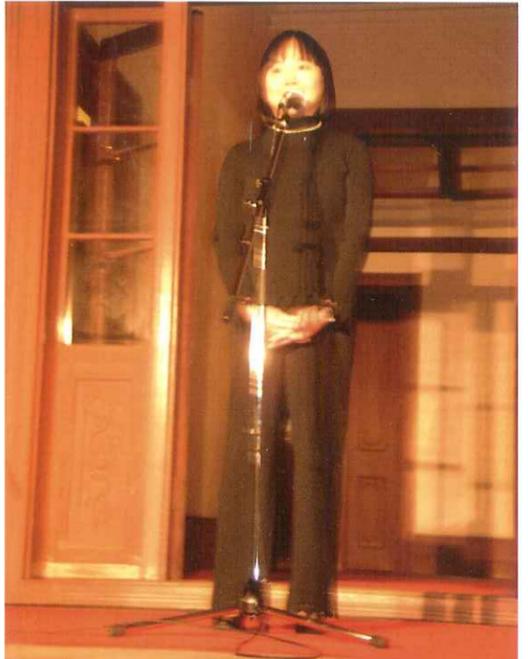
県境を越え九州が一つに
情報交換と交流のひととき



▲道守長崎会議

交流集会は、場所を移し港夜景が臨めるグラバー園で開催されました。メイン会場となった旧オルト住宅の庭は、九州各地から集まった約230名の道守会員による情報交換・交流の場と化しました。日頃は顔を合わせることもない各県道守会議メンバーの紹介や、悩み事や苦勞話あるいは参考になる貴重な体験話などがあちこちで交わされていました。

また、地元長崎の大学生からは、作詞作曲した道守をテーマにした歌が披露され、道守会員の感動を呼び起こしました。有意義な時間も過ぎ、「道守九州会議交流会2006」実行委員会への感謝と労いの後、道守長崎会議から来年の開催地・道守ふくおか会議へと「みちづくしペナント」が引き渡され、盛況裡に交流会も閉会となりました。



▲開会挨拶をする阿野史子実行委員長(道守長崎会議代表世話人)



▲「道守の歌」を披露してくれた長崎大学生



▲道守かごしま会議



▲道守みやざき会議



▲道守くまもと会議



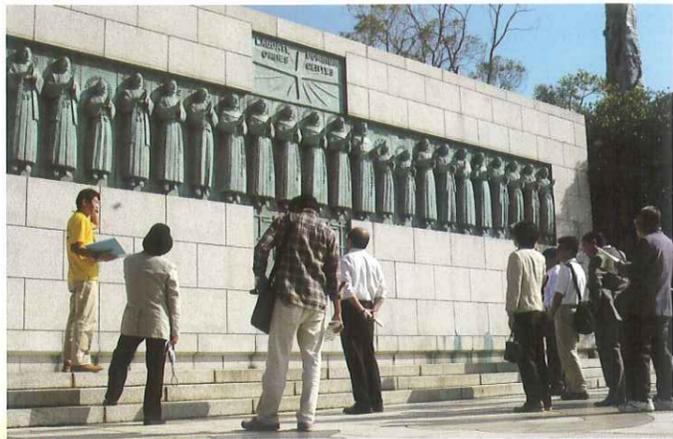
▲道守佐賀会議



▲道守ふくおか会議



▲池邊さんは大分県湯布院から。ホテルでも食べられている美味しいあんパンをお土産に。「大分には美味しいモノが沢山ありますよ」



5 長崎はローマだったコース

日本26聖人殉教地として知られる西坂の丘や本蓮寺、中国寺まで、あらゆる宗教施設が混在していました。



鹿児島から参加の平山孝子さん。「眺めがきれいだと思って、このコースを選びました。坂が長崎ならではのですね」



6 懐かしの街並みコース

古い商店街として地元で愛されている中通り。町家も残る懐かしい街並みではお菓子も試食も楽しめました。



鹿児島から参加の左から山内芳一さん、遠藤止子さん、大保サチ子さん。「長崎の人の普段の生活で使われている道。大変身近に感じますね」



柳川から参加の左から森信子さん、山田三代子さん。「石畳が長崎の風景にじっくり合いますね」



7 重文縁起よか界隈コース

風情のあるたくさんのお寺が並び寺町通りをメインに由緒ある古刹めぐりを楽しみました。

「長崎さるく博'06」体験学習

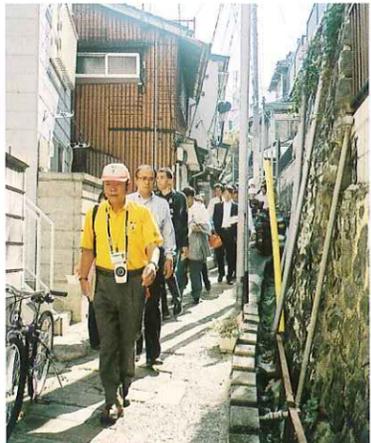
歩き体験7コース

晴天に恵まれたこの日、歴史ある長崎の「町歩き=さるく」を体験しました。およそ2時間の各コースで、史跡や建築物、歴史についてガイドさんの説明に熱心に耳を傾け、細い坂道や階段が多い長崎の道に驚きながらも、散策を楽しみました。



3 文人墨客も思案した?コース

江戸時代、貿易で栄えた長崎のサロンとして賑わった丸山界隈「長崎ぶらぶら節」の面影をさぐるコース。



2 媽祖様と唐りゃんせコース

400年以上前からの中国との歴史をたどる情緒豊かな唐人屋敷跡を歩きました。



4 長崎港水辺散策

港町・長崎は外国船が入港したことから歴史が始まりました。潮風を感じながらの港町歩きでした。



1 長崎は今日も異国だったコース

明治期、外国人居留地だった南山手地区のさまざまな洋館を巡りました。

大会宣言

大会初日の報告会終了後に、阿野史子実行委員長より大会宣言がなされました。

道守とは

「道」を舞台に、あるいはテーマに、さまざまな活動を行っている人々を私たちは「道守」と名付け、その行動を「道守活動」と呼んでいます。

「道守九州会議」は、九州各地で「道」に関する活動を行うNPOや市民団体、企業、研究機関、行政、個人等で構成する任意団体です。道路行政機関や自治体と連携し、民と行政との「協働」を基本に活動をしています。

みちづくし in NAGASAKI 道守九州会議交流会2006大会宣言

道ばさるいて人に出おうて、
道ばさるいてうまかもんば探して、
道ばさるいて町は知る。
私たち道守は美しい国日本をつくります。



開会挨拶をする阿野史子実行委員長
(道守長崎会議代表世話人)

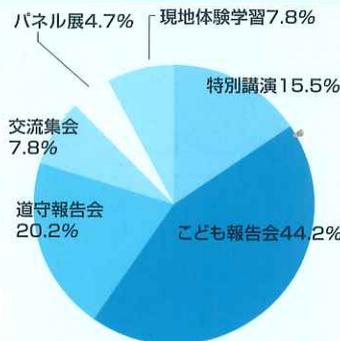
交流会参加の感想

▶約5割が「満足」。→満足「やや満足」で約8割。ネットワークの広がりにとっても有効という声が多かった。



興味を持ったプログラム

▶約4割が「子ども報告会」。次世代を担う子ども達の存在とその活動から啓発される大人達が浮き彫りになりました。



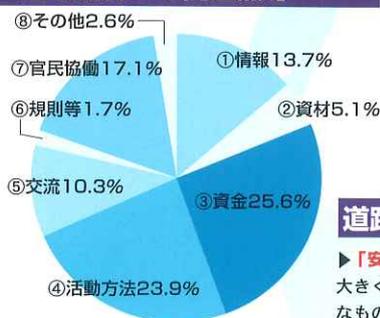
「道守」に関するアンケート結果(概要)

交流会の開催は、日頃の道守活動や行政施策への参考となる情報収集、交流の場として有意義なものを受けとめられ、特に子どもの報告会への参加は大きな反響がありました。しかし、道守活動の普及・発展への展望や情報活動などの必要性も明らかになりました。

配布:みちづくしinNAGASAKI
帳票配布数:363(当日受付数)
回収期間:H18/10/27~11/13
回答者数:78名(回収率21.5%)

道守活動での問題点等

▶現状の問題点は、「資金」や「活動方法」に関する悩みが伺えます。



道守活動が役立つ項目

▼道守活動は、「環境美化」や「地域づくり」に貢献していることが伺えます。また、マナー向上等にも役立つと考えられています。

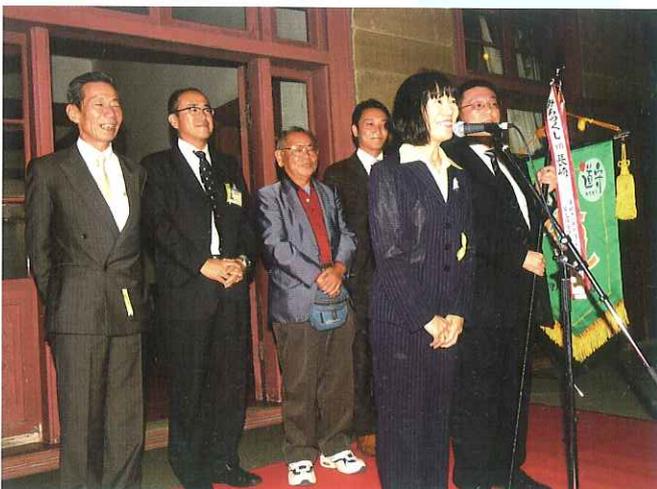


道路行政等に期待するもの

▶「安全安心」や「景観・環境」への期待が大きく、また「官民協働」といったソフト的なものへの期待も伺えます。



2007年開催地の「道守ふくおか会議」へと引き継がれた大会旗。



道守九州会議交流会2006 開催概要

- ・道守九州会議交流会2006実行委員会
- ・道守長崎会議 ・道守九州会議

【お問い合わせ・連絡先】

道守九州会議事務局〔(社)九州地方計画協会内〕

〒812-0011福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号

☎092-473-1057(代) FAX092-475-0533

道守ホームページ <http://www.michimori.com/>

e-mail michimori@michimori.com